

ああ…恥ずかしい私の失敗談

河原 麻里

北稜クラブに入会をして、初めて黒百合を手にとったときから、このコラムの担当がいつか回ってくるのが恐怖でした（自分の話をするのがとても苦手なのです…）。そしてついに今回、順番が回って来てしまいました。

編集担当の井出さんから原稿依頼メールを受け取った日からずっと何かネタは無いものかと頭をひねってきました。これまでの山行を振り返ってみたり（山の写真を見ているとあっというまに時間が過ぎてしまうことを再発見）、黒百合のバックナンバーを読み漁ったり（みなさんのいろいろなエピソードを楽しく読み、そして時間だけが過ぎ…）

この原稿を書いている今、もうすでに締切を過ぎてしまっています。しかし、かなしいほど何もネタが出きません。ああどうしよう。

都内で働きづめだった頃、コンクリートジャングルから逃げ出たくて仕方なかったわたしは、休みとあらばとにかく山へ行っていました。厳冬期は奥多摩や丹沢、あたたかくなってくるとハヶ岳エリア、夏になると北アルプスへ通いまくり、そして初雪が降る頃にはまた奥多摩へ戻る。そんなサイクルでした。人気のルートよりも、人があまり居ない静かな山道が好きで、マイナールートやバリエーションルートを好んで歩いていました（といっても北海道の山からすると、踏み跡も明瞭な、一般道？かもしれないが…）。

登山口までは電車やバスを乗り継いで行っていました。Suicaの残高不足で慌てるというのは都内近郊山登りあるあるなのですが、オートチャージでしっかり対応済みのわたしはそんな心配もなく、その日もガタゴトと、山へ向かう列車に揺られていました。

目的の駅は無人駅。車内では車掌さんが切符の確認をしていました。…切符?! そう、切符!! あろうことか、目的の駅はSuica非対応だったのです。

車内で切符を購入して、事なきを得たのですが、Suicaの入場記録取り消しは、都内の駅に戻ってから行ってくださいとのこと。

案の定、山から帰宅の際にはすっかり忘れており、明けて月曜の出勤時、Suicaで入場できず、あわわ…となったのでした（通勤ラッシュ時に自動改札機を停めてしまうと、おそろしいことになるのです。札幌の暮らしに馴れてしまうと、もう都内ではサラリーマン出来ないな…と思う今日この頃でした。）おしまい。